

Picture Books for Babies



2018～2020年度 ブックスタート赤ちゃん絵本が決定

2017年5月、2日間にわたり第9回絵本選考会議を開催。
各地域のブックスタートで、2018年度からの3年間、手渡される絵本の候補となる
「ブックスタート赤ちゃん絵本」30タイトルが決定しました。

地域の様々なニーズを踏まえ、 30タイトルの絵本を選出

各自治体で行われるブックスタート事業において、対象となる赤ちゃんの月齢、手渡す絵本の冊数や予算額は様々です。また、どのような観点で絵本を選択するかも、地域によって少しずつ異なります。そうした自治体の多様な要望にお応えするため、今回より、選出する絵本のタイトル数と提供年数が変更になりました。
提供タイトル数・20タイトル↓30タイトル
提供年数・2年度↓3年度



<会議の様子>
それぞれの経験を持ち寄り、
絵本を読みあひながら議論が進められました。

ブックスタートの普及を支える 「非営利のしくみ」

NPOブックスタートは、会議で選出された「ブックスタート赤ちゃん絵本」を、自治体に「非営利のしくみ」を通じて提供しています。

独立・中立的な「選考会議」

絵本の選考は、赤ちゃん絵本の関係について豊富な知識と経験を有する5名の委員（P7参照）が、日本国内において、おおよそ満2歳児以下を対象に出版流通している絵本から、選考基準に基づき、公平・中立的な立場で行いました。

選考基準

赤ちゃんが保護者と豊かな言葉を交わし、気持ち

特別な価格と流通の適用

「ブックスタート赤ちゃん絵本」は、提供出版社に得失のない「特別支援価格」で、かつ通常の書籍流通と異なり、出版取次会社や書店を経由せず、出版社から直接NPOブックスタートに提供されます。そして、ブックスタート事業で親子に手渡す絵本として自治体に廉価で提供されます。ブックスタートのための、この一連の流れを「非営利のしくみ」と呼んでいます。

このしくみは、日本にブックスタートが紹介された2000年の子ども読書年の際に、出版界（出版社・出版取次会社・書店）が、この活動を応援することを確認して行った「ブックスタート・パックスの絵本提供のしくみからは直接的な利益を得ない」という合意に基づき、多くの出版関連各社の理解と協力に支えられ、運用されています。

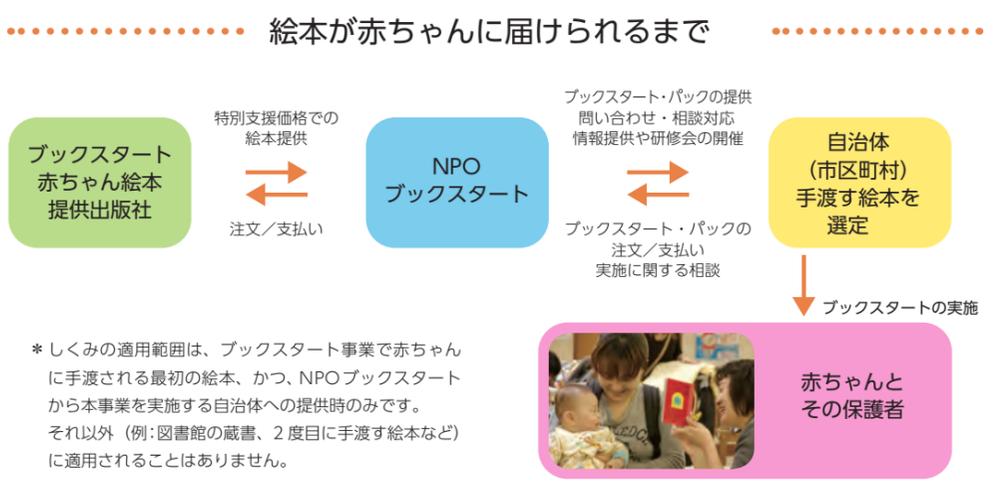
しくみの活用が事業の充実に

NPOブックスタートは、この「非営利のしくみ」によって、絵本などのブックスタート・パックスを自治体に提供し、その販売収益により、財政的にも自立した形で組織を運営しています。そして、各種資料の発行や研修会の開催など様々な取り組みを行い、各地のブックスタート事業を支援しています。つまり、各自治体が「非営利のしくみ」を活用し、事業を行うことは、全国各地のブックスタート事業の普及と充実に繋がっています。

タイトル 50 音順

『あ・あ』 作・絵/三浦太郎 (童心社)
 『あそび』 作/ヘレン・オクセンバリー (文化出版局)
 『あっ!』 文/中川ひろたか 絵/柳原良平 (金の星社)
 『いないいないばあ』 文/松谷みよ子 絵/瀬川康男 (童心社)
 『おつきさまこんばんは』 作/林明子 (福音館書店)
 『おひさまあはは』 作・絵/前川かずお (こぐま社)
 『かお かお どんなかお』 作・絵/柳原良平 (こぐま社)
 『がたん ごたん がたん ごたん』 作/安西水丸 (福音館書店)
 『かにこちゃん』 作/岸田裕子 絵/堀内誠一 (くもん出版)
 『くだもの』 作/平山和子 (福音館書店)
 『くっついた』 作・絵/三浦太郎 (こぐま社)
 『くらいくらい』 文/長谷川摂子 絵/柳生弦一郎 (福音館書店)
 『しっぽがびん』 作/おくはらゆめ (風濤社)
 ※『じゃあじゃあ びりびり』 作・絵/まついのりこ (偕成社)
 ※『しろくまちゃんのほっとけーき』 作/森比左志・わだよしおみ・若山憲 (こぐま社)
 『だっだあー』 作/ナムーラミチヨ (主婦の友社)
 『だるまさんが』 作/かがくいひろし (プロンズ新社)
 『どうぶつのおかあさん』 文/小森厚 絵/藪内正幸 (福音館書店)
 『とっとこととこと』 作/まついのりこ (童心社)
 『ととけこう よがあけた』 案/こばやしえみこ 絵/ましませつこ (こぐま社)
 『のせてのせて』 文/松谷みよ子 絵/東光寺啓 (童心社)
 『ぴょーん』 作・絵/まつおかたつひで (ポプラ社)
 『ふたごのしろくまねえ、おんぶのまき』 作/あべ弘士 (講談社)
 『ぼんちんぱん』 作/柿木原政広 (福音館書店)
 『ぼんぼんポコポコ』 作・絵/長谷川義史 (金の星社)
 『ママだいすき』 文/まど・みちお 絵/ましませつこ (こぐま社)
 『まるでん いろてん』 作/中辻悦子 (福音館書店)
 『もこもこもこ』 作/谷川俊太郎 絵/元永定正 (文研出版)
 『よくきたね』 文/松野正子 絵/鎌田暢子 (福音館書店)
 『りんご』 文/松野正子 絵/鎌田暢子 (童心社)

視覚に障がいのある方に対応するために
 著作権者への確認、準備が整ったタイトルについて「てんやく絵本」への交換対応をいたします。(製作協力: てんやく絵本ふれあい文庫)
 ※印のタイトルは、市販の「てんじつき さわるえほん」を提供します。



Picture Books for Babies

遠藤利彦
乳幼児発達
東京大学大学院 教授

子どもの心は人との豊かな相互作用の中で育ちます。そして絵本は、その相互作用を支え促すための魔法の道具です。一人ひとり、異なる個性をもった子どもが、絵本のどこにどんな好奇心を抱くのか、その視線の動きをじっくり見てみましょう。そして、その視線の先にあるものをトピックにして、心に自然に浮かんだことを、子どもに語りかけてみてください。きっと、子どもはあなたの声と目に関心を寄せるはずで、そして、無限に広がる心と心のやりとりで夢中になります。

庄司みゆき
保育士
東京都武蔵野市 まちの保育園吉祥寺 園長

保育士としての視点から、日頃子どもたちが楽しんでいる絵本を中心に、より子どもにとってわかりやすく、安心して繰り返し楽しめる内容のものを優先して選びました。また、子どもと大人と一緒にやりとりを楽しめる絵本も重視しました。他の委員の方々と熱い思いを交わすことで、自分自身の学びを深めるきっかけにもなりました。今後も、子どもたちの心が豊かに揺さぶられるような絵本、親子のコミュニケーションが深まるきっかけになるような絵本を発掘し続けたいと思います。

選考委員から

山口陽子
司書・保育士
愛知県あま市
「わらべうたの会」主宰

ブックスタートの場でわらべうたと絵本を介して赤ちゃんたちに出会うのは、とても心豊かなあたたかい時間です。ことばのリズムの楽しさは、この絵本の絵が持つ力は、月齢で考えるとどうかなど多くの絵本を1冊ずつ吟味し、真摯に選考した会議でした。赤ちゃんの心に寄り添って読むことができる絵本、どの子も持っているすてきな力を読んだ時に感じられる絵本であることを信じています。多才な力をお持ちの委員さんの中に初参加し、多くの学びをいただきました。これを地域の現場に返していけたらと思っています。そして、選ばれた絵本が聞き手の親子と読み手に幸せの時間をもたらしますように。



(写真奥) 鈴木さん、遠藤さん、庄司さん
(手前) 山口さん、代田さん
*本文敬称略

代田知子
司書
埼玉県三芳町立図書館 館長

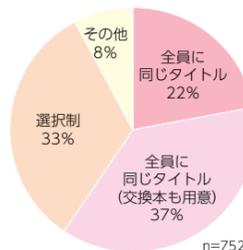
赤ちゃんに読んであげたい絵本群から、ブックスタートで赤ちゃんの反応が引き出しやすい絵本を選ぶように努めました。各地の実施状況から、主な対象は4か月から1歳6か月の赤ちゃん。月齢とともに変化する絵本の楽しみ方をそれぞれの経験から確認し合い、1冊ずつ審議しました。留意点は、赤ちゃんが楽しむことができることば(音)・絵か、心地よい色か、把握しやすい構図・引き付ける展開か、読み合う楽しさを実感しやすいかなど。これらの絵本が赤ちゃんを幸せにしてくれますように。

鈴木潤
子どもの本専門店
「メリーゴーランド」京都店 店長

「初めて絵本に出会うかもしれない赤ちゃんとお母さんお父さんに、素敵な絵本との出会いがありますように」会議の間、ずっとこのことだけが頭にありました。私はその想いをたった1冊の絵本に託すことしかできないのですから、本を選ぶのには自然と力が入ります。知らない本と出会ったり、知っているつもり絵本の新たな魅力に気づいたり、学びの多い会議で素晴らしい体験をさせていただきました。

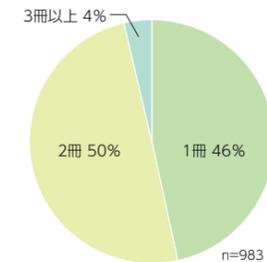
(参考)

手渡す絵本のタイトル



2013年度 アンケート調査より

手渡す絵本の冊数



2016年度 実施状況確認シートをもとに集計

POINT

赤ちゃんは、成長に応じて少しずつ絵本の楽しみ方の幅を広げていきます

今回の会議では、赤ちゃんが月齢や発達段階ごとに、絵本のどのような要素を好むのか、一冊の絵本においても、どのように楽しみ方の幅を広げていくのか、そして、親子の間で絵本がどのような役割を果たしていくのかについても話し合われました。その内容の一部を紹介します。

※赤ちゃんの発達には個人差があり、絵本の楽しみ方も様々です。あくまで目安としてご参照ください。

4か月頃になると…

人の顔やその表情の変化といった視覚的な刺激や、言葉のリズム、アクセント、イントネーションといった音声的な刺激にひかれます。こうした要素を含む絵本には、顔や表情を分かりやすく描いているものや、リズムカルな言葉が繰り返されるもの、場面の変化が分かりやすいものなどがあります。

6-7か月頃になると…

上記の要素に加え、「次にどのようになるだろう」と予測を立てた時に、その通りの結果になる、さらには、そうした中に意外な展開が盛り込まれているような絵本も段々と楽しめるようになります。

9-10か月頃になると…

赤ちゃんが読み手が、同じものに興味を向けて、やりとりができるようになっていきます。段々とストーリーのある絵本を楽しめるようになり、さらには、絵の細部にも注意を向けられるようになるなど、楽しみ方の幅が広がっていきます。

どの絵本を手渡すか 決定は地域の皆さんで

どのような視点や配慮をもって手渡す絵本を選択するかは、自治体によって異なります。皆さんはどのようなことを大切に考えますか？ 皆さんの際には、ぜひ、絵本を手にとってみてみてください。そして、赤ちゃんや保護者の気持ちを考えながら読みあい、皆さんの思いがこもった絵本を選んでください。

※30タイトルの絵本を貸し出します。お気軽にお問い合わせください。

各地における絵本選択の視点例

【定評のあるもの／新しいもの】

- ・ ロングセラーや赤ちゃん絵本として定評がある。
- ・ 出版年が比較的新しく、家庭での保有率が低そうである。
- ・ **「今楽しめるもの／長く楽しめるもの」**
- ・ 対象月齢の赤ちゃんの反応が引き出しやすいことを重視。
- ・ 月齢の低い赤ちゃんでも楽しめるものと、少し大きくなって楽しめるものを組み合わせる。

【絵本の仕様】

- ・ 赤ちゃんが扱いやすい大きさ、形。
- ・ 複数冊手渡すため、一冊は厚紙仕様にする。
- 【内容】
- ・ 健診でコミュニケーションの大切さを伝えるので、それに通じるもの。
- ・ 絵本になじみのない保護者も親しみやすく、読みやすい。
- ・ お父さんも恥ずかしがらずに読める。
- ・ 特定の家族像が想起されないもの。
- ・ 母子だけでなく、父子の絆も強められるようなもの。